



わたしたちが運ぶのは未来です



**運輸省**



# みなと しみず

**発行所**

第五港湾建設局  
清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号  
TEL 清水 <0543>52-4146(代)



清水港

## 年頭にあたって

所長 尾崎 正明



あけましておめでとうござ  
います。

我が国を取りまく、政治あ  
るいは経済社会は大きく変化  
し、我々行政に携わるものは  
これらの多様な変化やニーズ  
を的確にとらえ、柔軟かつ積  
極的な対応が必要であります。

特に最近の港湾整備に対す  
る風当たりは強く、港湾の果  
たしている役割や今後のあり  
方について、多くの人々に理  
解をされ、御協力が得られる  
よう協力しなければならぬ  
年と考えています。

さて、管内の港湾に目を向  
けると、第一に国際貿易港清  
水港の港湾計画の一刻も早い  
策定であります。昨年一年間  
は、漁業関係者や地元関係者  
を中心に計画策定に向けての  
調整努力がなされ、かなり煮  
詰まってきておりますが、な

お一層の努力をしなければなら  
ないと考えております。

また、清水港では「日の出  
地区のウォータフロント」  
や「みなと色彩計画」も進み、  
人々に「うるおい」や「にぎ  
わい」をみたらす美しいみな  
とづくりが進んでいます。

さらに、現在当事務所では、  
夜景や観光に焦点をあてた調  
査を行っており、その成果を  
地域振興のために役立てたい  
と考えています。

第二に御前崎港については、  
地域開発の核として着実に整  
備が進んでいます。併せて  
二十一世紀の港の姿も検討が  
なされており、なお一層の期  
待がされているところです。

第三に下田港ですが、整備  
中の防波堤は、近々新型の構  
造となりますが、これを機会  
に下田のような自然環境に恵  
まれた地域と調和の図れる工  
夫をしたいと考えています。

さらに県内各港のウォータ  
フロントづくりにも大いに役  
立ちたいと考えています。

本年も各位の御健勝を祈念  
するとともに、清水港工事事  
務所に対する益々の御支援御  
鞭撻をお願いし、年頭のごあ  
いさつとさせていただきます。

▼清水港  
港湾文化活用調査  
第一回委員会を開催



十二月八日フェルケール博物館において、港湾文化活用調査の第一回委員会が開催された。

前号で紹介のとおり今回の調査は、「港の夜景を集客材料としてとらえ、港を観光資源の面からも整備する」をテーマに行われたもので、委員会は東海大学海洋学部酒匂敏次教授を座長に各界の有識者十名により行われた。

委員会では、再開発された名古屋港ガーデン埠頭の夜景やベイブリッジを中心とした横浜港の夜景のスライドを見ながら、清水港の夜景との比較検討がなされた。

「夜景を見ながら食事ができるような施設や、そこまでのアクセスの整備」があげられた。

今後の検討課題として、「夜景を見ながら食事ができるような施設や、そこまでのアクセスの整備」があげられた。

夕方五時から当所の監督測量船まさきにより行った港内視察では、中部電力の煙突(百五十メートル)がライトアップされ夜空に映えていた。

長瀬和則

静岡県の港シリーズ(八)

宇久須港

▼賀茂村

宇久須港のある賀茂村は昭和31年、宇久須、安良里両地区の合併により誕生し、今年で合併37周年を迎える。

村の北側に位置し、宇久須港がある宇久須地区はガラスの原料となる珪石等を生産する鉱工業、南側に位置する安

良里地区はカツオ漁等の遠洋漁業を中心とした漁業が盛んである。

▼沿革

宇久須港は宇久須川の河口に位置し、自然の地形を利用



宇久須港

して南からの波浪を避けた良港である。

宇久須港は、はじめ漁港として、また沼津からの定期客船の寄港地として発展してきた。その後昭和15年頃より碎石の積出し港として脚光を浴び、戦後資源開発のため臨海工業が建設された。これと相まって港湾施設も漸次整備され、公共棧橋65m、岸壁(55m)36m、物揚場(20m)70m、橋梁1基が完成、防波堤も局部改良事業で昭和42年までに100mが完成、利用されている。

昭和43年から新規改修港湾として西防波堤の延長工事を進め47年に完了し、その後

においては、防波堤の延長、護岸の改良、道路、船揚場等の整備が進められている。

現有施設は、5.5m岸壁100m、公共棧橋131m、物揚場延長247mとなっており、取扱貨物量は、平成4年において、砂利、砂等の石材の移出を中心に130万4千トン数を数えている。

▼宇久須MTP

宇久須港マリン・タウン・プロジェクトは平成2年度に第五港湾建設局、静岡県、賀茂村が計画を策定している。計画の中身は碎石、珪石等の石材積出用4バース(80m/バース)、マリーナ、海水浴場、キャンプ場、第2クリスタルパーク(商業施設)、汚水処理施設である。

キャンプ場は今年7月オー



宇久須キャンプ場

プンに向けて現在整備中である。

▼黄金崎公園

宇久須港と安良里港の間に



黄金崎

突出した黄金崎は、海の展望のすばらしさと黄金色に染まる落日の美しさで知られる西伊豆の名勝。岬全体が松林を中心とした広大な公園となっている。駿河湾と富士山の眺望もよく、遊歩道に沿って、芝生の広場や展望台等があり、春にはサクラ、秋にはイソバキ、ツワブキが咲きみだれる。なお岬には安良里の旅館に執筆のため滞在したこともあ

講演 演

今後の経済動向から見た

清水港の役割

運輸省 栢原技術審議官

清水港振興会(会長宮城島弘正)は、12月16日日出七

ンターにおいて、運輸省大臣  
官房柏原英郎技術審議官を講



柏原技術審議官

師を迎え、清水港に関する講  
演会を開催した。

講演は、今後の経済動向か  
ら見た清水港の役割のテー  
マで行われ、国内における港  
湾整備の方向とそれに対応す  
る清水港の役割と課題につい  
て話された。

外貿においては、増加する  
製品輸入貨物に対し、輸入対  
応型港湾の整備が重要となり、  
また、三大湾（東京、大阪、  
伊勢）に集中するコンテナター  
ミナルを地方に分散する必要  
性、さらに内貿におけるモー  
ダルシフト（輸送手段の切り  
替え）の推進を強調された。  
清水港に関しては、東西大  
都市圏の中間に位置する地理  
的な利点、また高速道路との  
連絡の良さを生かした港湾の  
整備が望まれ、さらには外洋  
に近いことからTSLの寄港

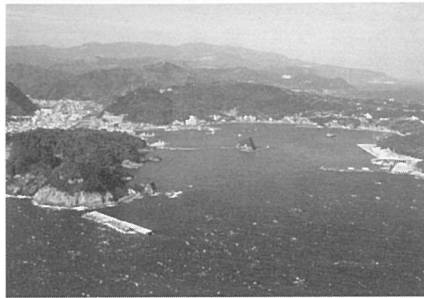
地としての優位性を話された。  
今後における港の在り方は、  
物流拠点としての港だけでなく、  
賑わいや親しみのある空  
間としての開発整備が必要で  
あると結ばれた。

### 下田港避難防波堤

#### 1 港の概要

下田港は、東日本と西日本  
を結ぶ重要な航路筋にあたり、  
江戸時代より回船の寄港地に  
なっている。

昭和26年避難港に指定され  
鶴島防波堤・東防波堤が築造  
されている。しかし、近年の  
船舶の隻数の増加・特にレジャー  
船の増加に伴い、下田港への  
避難船舶は大変増加している。  
このため、安全な広い避難泊  
地の整備が必要となり、昭和  
55年に国の直轄事業として、  
下田港避難防波堤の建設が採  
択された。



建設が進む防波堤（写真左下）

#### 2 避難防波堤の概要

昭和27年には、地方港湾に  
指定され岸壁・港湾施設用地  
等が整備されてきた。  
主要な施設としては、魚を  
水揚げするための物揚場・岸  
壁、生活物資・石材等を扱う  
雑貨岸壁のほか、東海地震に  
対応する耐震岸壁が整備され  
ている。

当防波堤は、避難船の収容  
能力と建設費用等を勘案して、  
赤根島側から500メートル、御  
台場側から400メートルを建設  
し、開口部は120メートルとす  
ることになった。

当防波堤の建設地点の最大  
水深は、42メートルと全国的  
にも釜石港に次ぎ深く、波高  
は太平洋からの波が直接来襲  
するため、設計有義波高が堤  
前で最大10メートルとなつて  
いる等、防波堤の建設には苛  
酷な条件となっている。

このため、防波堤の最深部  
には第五港湾建設局が新たに  
開発したT・B・Wamu  
(消波ブロック内蔵双胴型ケー  
ソン)を使用する計画になつ  
ている。

このケーソンの特徴は、内  
蔵された消波ブロックにより  
波エネルギーの減殺ならびに  
前柱と後壁による双胴間位相  
差による反射波の低減の両方  
が可能で、従来の消波ブロッ  
ク被覆堤と縦スリットケーソ

ンの双方のメリットを併せもつ  
ている。また、地盤の悪い一  
部区間では、我が国の施工事  
例では最大級の沈床工法を採  
用、さらに差し込みケーソン  
では目地間隔が平均で20セン  
チメートルを実現させる等か  
ずかずの新技术を取り入れて  
いる。

#### 3 工事の進捗状況

当避難防波堤は、昭和55年  
に事業採択され、その後各種  
の調査を行い、昭和60年3月  
に漁業補償が行われた。

本工事は、同年の9月に防  
波堤建設地点での投石を皮切  
りに開始された。

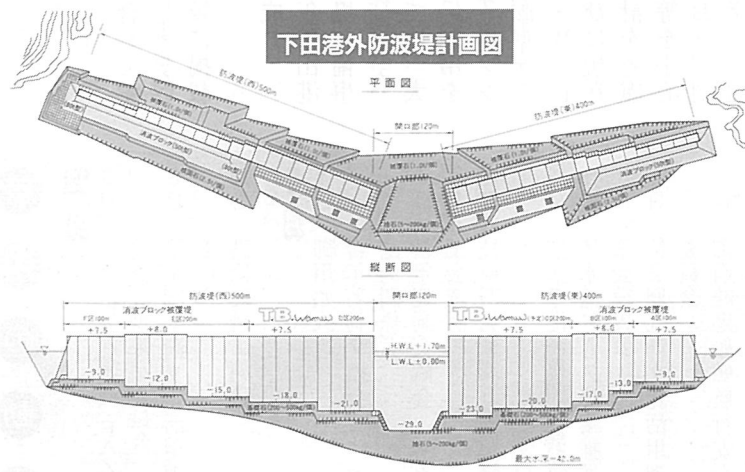
その後、防波堤の  
建設のための作業  
基地が本体防波堤  
工事と並行して施  
工され、平成2年  
度に完成している。

事業採択から本  
年度（平成5年度  
までの総投資額は、  
138億円余りとなり、  
その間にケーソン  
を12函製作、うち  
11函・延長にして  
約220メートルが現  
地に据え付けられ、  
その容姿を海上に  
現している。

4 おわりに  
最近の魚礁効果  
調査によると、イ

シダイをはじめ幾種類もの魚  
群が防波堤建設地点付近で観  
察された。また、赤根島側の  
開口部付近に多量の伊勢エビ  
が発生しているとの漁業関係  
者からの話がある等魚礁効果  
が現れている。  
最後に、当事業に関係した  
事務所長は9代（道厘清・故  
大堀晃一・高橋通夫・武藤昭  
光・輪湖建雄・常陸壮介・前  
田正孝・中村豊・尾崎正明）  
と移り替わっている。また、  
下田港の事業に携わった職員  
の数は、74名に達しています。  
この多数の人々の英知と努

下田港外防波堤計画図



力、それに地元の漁業関係者をはじめ多数の方々の協力と理解があつて漁業補償・国立公園との調整等の諸問題がクリアーされており、現在工事は順調に進捗しております。

(次長 宮下俊明)

### 御前崎港整備構想案

▼目標年次は平成17年  
御前崎港の新たな港湾計画を策定するための御前崎港整備構想案が昨年中にまとまった。

構想案では、静岡県中西部地域を背後圏とする流通拠点として、特に外貿コンテナの取扱いができる多目的埠頭の整備、RORO船等のユニットロード化に対応出来る高エネルギー埠頭の整備、海洋性レクリエーション需要の増大に対応するため、マリナー、親水緑地を中心とした海洋性レクリエーション基地の整備、港湾における諸活動の安全を確保するための外郭施設の整備等が盛り込まれている。

整備の基本方針と整備構想案は次のとおりである。

#### 整備の基本方針

- ▽コンテナ・石炭・木材・鉄鋼などの外貿貨物を取り扱う高度化された埠頭の整備
- ▽内航フェリーなど輸送の迅速化、多頻度化に対応した

海陸一貫輸送体制を確保する内貿ユニットロードへの対応

- ▽海洋レクリエーション需要に対応したマリナーの整備
- ▽地域漁業の振興のための漁業基盤の整備
- ▽県民に親しまれるウォーターフロントの整備

▽港湾の静穏度と船舶の安全の確保

- ▽埠頭の背後地域を結ぶための港湾道路の整備
- ▽大規模地震対策施設への対応

#### 整備構想案

▽構内の静穏度と船舶の安全の確保—女岩地区・地頭方地区の防波堤(西)

▽コンテナ、鉄鋼、木材などの外内貿貨物を取り扱うための埠頭の整備—(女岩地区・地頭方地区) 水深一四メートル岸壁、水深一二メートル岸壁、水深七・五メートル岸壁(御前崎地区) 水深一二メートル岸壁

▽内貿ユニットロードターミナルの整備—地頭方地区水深一〇メートル岸壁

▽海洋レクリエーション需要に対応したマリナーの整備—や緑地の整備

▽育てる漁業のための畜養施設用地の整備—地頭方地区で畜養施設用地

## 工場だより

— 御前崎工場 —

### 青年の船に乗って

櫻井日出伸



清水港を出港する新さくら丸

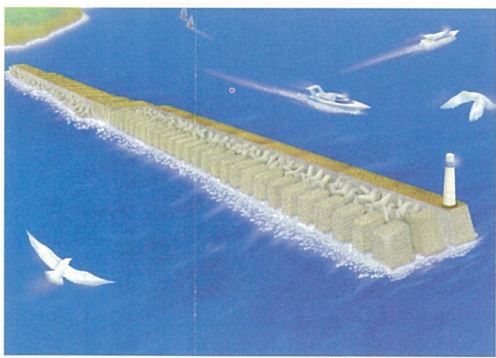
青年の船とは、高校生から三十歳未満の青年が約四百名集まって、船で旅をすること。今回は、十二月二十七日から一月六日までの十一日間の旅行先は香港・浙江省(中国)・タイと3つのコースに分かれていて、自分が一番安い香港へ行くことに決めました。値段は、最初に各コースとも約十五万円、その外に香港なら二万五千円、浙江省、タイは約十万円かかります。後に、各市町村から補助金が出ます。自分の場合御前崎町から六万円の負担がありました。日程は、二十七日新さくら丸にて清水港を出航、三十一日の朝香港に到着。タイ・浙江省は飛行機で現地へ行き、三日の夜に香港に集合してすぐ出航、六日に帰国しました。現地での様子は次号に掲載します。

丸にて清水港を出航、三十一日の朝香港に到着。タイ・浙江省は飛行機で現地へ行き、三日の夜に香港に集合してすぐ出航、六日に帰国しました。現地での様子は次号に掲載します。

#### ▼下田港パンフを作成

当事務所では、昨年下田港における避難港防波堤整備事業のパンフレットを作成した。

このパンフレットでは、大水深部(最大42m)に採用を予定している新型ケーソン「消波ブロック内蔵双胴型ケーソン」(通称T・B・Wamu)の構造、景観並びに現在検討中である景観設計を考慮した完成イメージ図等を中心として取りまとめ、同事業に対して理解を深めて頂くための一助としたい。



## 管内の動き

### 12月

- 3日 第3回輸入促進地域(FAZ)整備計画策定委員会
- 8日 第1回港湾文化活用調査委員会
- 16日 港湾経済講演会

### 1月

- 4日 御用始式
- 新年名刺交換会(清水港港湾関係者)
- 6日 新年賀詞交歓会(清水商工会議所)
- 10日 技術開発長期計画検討会 [名古屋]
- 12日 清水港湾機関長会議
- 18日 清水港FAZ事業推進協議会役員会
- 19日 第2回港湾文化活用調査委員会
- 26日 御前崎港船舶航行安全対策調査委員会 [静岡]

### 2月

- 1日 第3回清水港多目的上屋基本設計調査委員会
- 10日 第5回静岡清庵地域振興方策調査懇談会 [静岡]
- 21日 所長会議 [名古屋]

